

Slovenia Monthly April 2016 vol.2-no.4

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2016年5月4日



～4月の主なポイント～

政治：ムラカル文化大臣が辞任を表明。

パホル大統領とグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領がそろってマケドニアを訪問。
スロベニアが気候変動に関するパリ協定に署名。

経済：2015年の航空機(国際便)乗客数が146万人となり、前年と比べ10%増加。

環境・空間計画省：コペル～ディヴァチャ間の第2鉄道路線の建設許可証を発行。

スポーツ用品メーカー「エラン」社：スキージャンプ用スキー板製造事業からの撤退を発表。

治安：南東欧地域での過激主義対策に関する会合が開催。

社会：スロベニア人写真家がピューリッツァー賞をスロベニア人として初めて受賞。

政治

【内政】

●ムラク労働大臣に対する解任動議の提出【12日】

野党第一党である民主党(SDS)は、社会福祉施設が親族の意に反して2人の子供を祖父母の元から児童養護施設に移した事案を受けて、ムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣に対する解任動議を提出した。この祖父母は、子供の父親が殺人罪で逮捕されたため2人を引き取っており、民主党は、本事案は社会福祉施設と政府による職権濫用であると非難した。

●国家改革プログラムの採択【14日】

政府は、2016～2017年の経済政策に関する国家改革プログラム(National Reform Programme)を採択した。本プログラムは欧州委員会に提出されるもので、生産性の向上と長期的な財政の持続可能性の確保を目的としており、主に交通機関への公共投資を通じた経済成長の促進を重要政策としている。また、社会保障制度の長期持続可能性を目的とした保健制度改革、年金制度改革も盛り込まれている。

●米務省によるスロベニアの難民対応における人権問題への指摘【14日】

米務省は、人権報告書において、スロベニアを通過する数千人規模の難民への対応がスロベニアにおける最も重大な人権問題であると指摘した。同報告書では、特にハンガリーが対クロアチア国境を封鎖した10月における難民センターの状況を、複数のNGOの懸念を引用する形で指摘している。他方で、その後、当局が仮設シェルターを設置し、効率的な交通機関を運用したことで状況は改善し、国際機関やNGOと協力して、難民に対する人道的で安全な追加的措置がとられたとしている。

●ムラカル文化大臣の辞任【25日】

18日、ツェラル首相は、ムラカル文化相がユネスコ世界遺産に登録されているイドリヤ水銀鉱山の管理に関する政府方針に従わなかったとして、同大臣に辞任を要求し、同大臣がこれに応じなかったため、19日、国会に同大臣に対する解任動議を提出した。25日、ムラカル文化相は、不信任投票の実施を前に辞任を表明した。

ツェラル首相は、ムラカル文化相が不適切な行動をとり、文化に関する重要政策が実施できなかったことにより、スロベニア文化に損害を与えたと述べた。これに対し、ムラカル文化相は、イドリヤ水銀鉱山の管理に関する施策の不履行は予算の問題であり、ツェラル首相の主張はあてはまらないと強調した。

スロベニアに迫る！⑩

国旗の日

スロベニアでは4月7日は国旗の日です。国旗の日は、スロベニアがオーストリア帝国の一部だった1948年4月7日、愛国者のロウロ・トマン(Lovro Toman)が現在の国旗から国章のない三色旗をリュブリャナ市内の通りに初めて掲げたことに由来します。

現在の国章付きのスロベニア国旗は、1991年6月24日に旧ユーゴ時代の憲法を改正した際に国会で定められたものです。

白・青・赤のスラブ三色旗に国章が付され、国章にはスロベニアの最高峰トリグラウ山が描かれています。山の下の波型はアドリア海や国内の河川を表し、3つの星は中世に栄えたツェリエ家の紋章に由来しているとされています。



【外政】

●エリヤヴェツ外相のモロッコ訪問【5・6日】

エリヤヴェツ外相はモロッコを公式訪問し、メズール外相と南地中海地域や中東地域情勢等につき協議した。エリヤヴェツ外相は、地中海地域及び中東地域の安定と発展はスロベニアの関心事項であると述べ、異なる文化間の対話強化及び地中海・アフリカ地域での理解促進におけるモロッコの努力を賞賛した。

●ギリシャへの難民対策支援物資の送付【11日、15日】

11日、スロベニア政府は、難民対策のため、ギリシャに支援物資を送付することを決定し、15日に発送された。支援物資は、ブランケット、テント、寝袋など約80トンで、105万ユーロ相当になる。

●パホル大統領及びグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領によるマケドニア訪問【12・13日】

パホル大統領及びグラバル＝キタロビッチ・クロアチア大統領は2日間の日程でマケドニア訪問し、イバノフ・マケドニア大統領と会談を行ったほか、対ギ

リシャ国境に位置する移民のトランジット・センターを視察し、マケドニア警察に対する支援のために派遣されているスロベニア人及びクロアチア人警察部隊の隊員と面会した。

パホル大統領は、訪問終了に際して記者団に対し、スロベニアによるマケドニアのEU及びNATO加盟努力に対する支持継続を表明し、難民危機に鑑み、マケドニアの安定は地域全体にとっても重要である旨強調した。



(写真：スロベニア大統領府)

●パホル大統領のポーランド訪問【22日】

パホル大統領はポーランドを訪問し、二国間協力及び両国の親密な関係の更なる強化について意見交換を行った。両大統領は、貿易及び投資の更なる拡大を呼びかける一方で、運輸分野は未だに大きな潜在性を秘めているとして、二国間のみならず、V4の枠組みでの本件分野における協力強化が必要との点で合意した。

また、両大統領は、難民問題及びEU・ロシア関係、ウクライナ情勢、西バルカン及びシリア情勢等の国際問題についても意見交換を行い、EU及びNATOがより迅速に懸案となっている治安及びその他の問題に対処していくことが重要であるとの考えで一致した。

●スロベニアのパリ協定への署名【22日】

ツェラル首相は、他の175カ国の代表とともに、スロベニアを代表して、COP21において採択された気候変動に関するパリ協定の署名式に参加した。スロベニアは、翌年に同協定への批准を予定している。

ツェラル首相は、署名後、パリ協定は気候変動との闘いにおける転換点であり、気候変動から世界を守ると各国指導者が誓約することがきわめて重要である旨述べた。

経済

【マクロ経済・統計】

●2016年第1四半期の財政赤字【15日】

財務省は、2016年の第1四半期の財政赤字が5億9600万ユーロとなり、昨年同時期の6億7290万ユーロと比べて大きく減少したと発表した。本年の財政赤字の目標は年間で8億3930万ユーロまたは対GDP比2.1%以内としている。第1四半期での支出は24億9000万ユーロで、前年の26億3000万ユーロから減少している。

●財政赤字削減計画の国会承認【19日】

2019年までの財政赤字削減に向けた政府計画が国会で承認された。本計画では一般財政赤字を2017年は対GDP比で1.7%、2018年は1%、2019年は0.4%に抑えるとしている。

ムラモル財相は、段階的な財政赤字の削減は公共財政の安定をもたらす、経済成長への負の影響を防ぐことができると述べた。

一方で、民主党は、本計画を独立して監督する財政理事会の欠如を問題点として指摘し、その他の野党も本計画に反対票を投じた。

●2015年の航空機(国際便)乗客者数【19日】

スロベニア統計局は、2015年の航空機(国際便)乗客者数が146万人となり、前年と比べ10%増加したと発表した。そのうち、アドリア航空社が運航するフライトの利用者は128万人で、前年比15%増を記録した。

最も利用者が多かったのはスロベニア・ドイツ間(全体の18%)、続いてスロベニア・英国間(12%)であった。増加率が最も高かったのはスロベニア・スイス間で、前年比41%増を記録し、一方でスロベニア・ロシア間の国際便利用者は前年比24%減で、最も下げ幅が大きかった。

スロベニアに迫る！⑱

スロベニア主要企業の輸出

日刊デロ紙が2015年のスロベニア企業の輸出額に関するランキングを発表し、スロベニア南東部に所在する製薬会社であるクルカ(Krka)社が第1位となりました。続く第2位には大手家電メーカーのゴレニエ(Gorenje)社、第3位には製薬会社のレク(Lek)社が入りました。ベスト10は以下の表のとおりです。

2015年におけるクルカ社やゴレニエ社の輸出額は前年に比べ減少したものの、ランキング上位30社

のうち8社の輸出は、前年比で二桁の成長率を記録しました。

	企業名 (出資企業の国籍)	事業分野	輸出額 (千ユーロ)
1	Krka(スロベニア)	製薬	1,085
2	Gorenje(日本他多国籍)	家電製造	1,049
3	Lek(スイス)	製薬	1,022
4	Revoz(フランス)	自動車	1,019
5	SIJ(ロシア)	金属加工	580
6	Impol(スロベニア)	金属加工	520
7	Korektor(スロベニア)	機械部品製造	282
8	Talum(スロベニア)	金属加工	247
9	Julon(イタリア)	繊維	213
10	LTH(多国籍)	金属加工	203

【金融・企業関係】

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線の建設許可【1日】

環境・空間計画省はコペル～ディヴァチャ間の第2鉄道路線の建設許可証を、申請者のインフラ省に対し発行した。同許可証は3年間有効であり、その後2回、最長で2年間延長が可能となる。ガシュペルシッチ・インフラ大臣は、建設ルート上の水流変更、排水管設置及びアクセス道工事等の準備工事を本年中に開始し、建設工事にかかる入札については2017年末頃に開示され、工事は2018年春頃に開始される予定となっている旨述べた。

●エネルギー・セクターでのストライキ【4日、12日、20日】

4日、エネルギー事業労働組合は、政府による国営電力事業の再建計画の採択及び一方的な職員解雇の停止を求め、15日間のストライキを開始した。本ストライキは、1日2時間のサボタージュを行うもので、エネルギー事業者の60%にあたる60社から300人が参加した。

12日、労働組合は、ストライキを拡大し、2時間の電力供給停止を計画していると発表した。同労働組合は、政府が国営電力企業を海外事業者に売却しないことへの誓約を要求している。

20日、政府代表者と労働組合は、ストライキの原因となった問題の解決に向け、交渉の場を設けることで合意し、労働組合はストライキの終了を発表した。

●ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣のロシア訪問【17～20日】

19日、ロシアを訪問したポチヴァルシェク経済大

臣は、ニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣及びマン
トゥロフ貿易産業大臣との間で会談を行い、経済関
係強化につき意見交換を行った。ポチヴァルシェク
大臣は、今回の会談はロシアとの間の貿易強化及
び更なる投資誘致に向けた基礎となると評価しつ
つも、両国間の貿易高は近年減少傾向にある旨指
摘した。

また、同大臣はロシア投資庁を訪問し、SPRITと
ロシア投資庁との間の協力に関する覚書に署名した。
同大臣は、ロシア投資庁の代表が5月末にもスロベ
ニアを訪問し、スロベニアの投資誘致に関する会
合に出席することで合意したことを明らかにした。

20日、ポチヴァルシェク大臣は、タタルスタン共和
国に移動し、ジュノフ経済大臣と会談を行った。会
談では、同共和国のイノポリス大学、リュブリャナ大学、
スロベニア商工会議所及び Iskratel 社とのIT分野
での協力に関する覚書について協議され、同覚書は
スロベニア・ロシア間の次回二国間委員会会合にお
いて署名される予定となっている。

●エラン社がスキージャンプ市場からの撤退を発表【19日】

スポーツ用品メーカー「エラン」社(昨年7月にロシ
アのベンチャー基金傘下の「Wiltan Enterprises」社に
売却)は、スキージャンプ用のスキー板製造事業か
ら撤退し、スキージャンプ競技のスポンサーも終了
すると発表した。同社は、撤退の理由として、生産・開
発費が大きく収入が小さいため、採算性が低いこと
を挙げている。

今季のスキージャンプワールドカップ優勝者であ
る高梨沙羅選手、スロベニアのプレウツ選手はとも
に同社のスキー板を愛用しており、同社の突然の決
定に驚きが広がっている。

2015年のエラン社の売上は7100万ユーロで、
380万ユーロの黒字を記録している。

治安

●南東欧地域での過激主義対策に関する会合【19日】

国防省主催、地域安全保障研究所、在スロベニア
米国大使館等の協賛により、ブルドー・ブリュニ・プ
ロセスの一環として南東欧地域での過激主義対策に
関する会議が開催された。本会合では、テロリズム
に対してより一丸となって対処する「フロントライン・
プロジェクト」について議論され、過激主義対策に関

係する警察、保健機関、教育機関等の代表が参加し
た。

ファンク・スロベニア警察長官は、国家間及び各機
関の間で信頼関係を構築することが重要であり、警
察だけではテロ行為を未然に防ぐことはできない、本
プロジェクトに参加する諸国とは、難民問題の対処
に際して既に緊密な関係が築けており、この関係は
新たなプログラムの実践やより緊密な情報交換に生
かすことができる旨述べた。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア人写真家がピューリッツァー賞受賞【19日】

卓越した報道写真に贈られるピューリッツァー賞ジ
ャーナリズム部門が発表され、スロベニア人写真家
のジブロビッチ氏が受賞した。同氏の写真は、難民
危機が最も深刻だった時期に、対クロアチア国境近
くの町、ブレヅツェ郊外を歩く難民を撮影したもので、
スロベニア人によるピューリッツァー賞受賞は今回が
初となる。



(Srdjan Živulovići氏による受賞写真)

発見！スロベニア

首都リュブリャナのカエル料理

スロベニア人にとって、リュブリャナに住む人々は
「Žabarji(カエル人間)」として知られています。これは、
リュブリャナにカエルが多く生息し、様々なカエル料
理が食されてきたことに由来します。

リュブリャナ南部に広がる広大な湿地帯は、カエ
ルの生育に理想的とされ、リュブリャナ地域の住民
は、長きにわたり食用カエルの売買を行い、16世紀
までは魚市場の看板商品となっていました。

近年ではカエルの保護規制や採算性の問題もあ
り、カエルの消費量は年々減少していますが、「プリ

ジャバリユ (Pri Žabarju)』などの数件のレストランでは、輸入した食用カエルを使って、今でも伝統的なカエル料理を提供しています。最近、カエル料理はリュブリャナ独自の地域料理として再認識されており、ガイドブックに登場したり、食に関するイベントで取り上げられたりしています。



(写真: Pri Žabarju)

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックが出来ました！

当館のフェイスブックでは、スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせやレポート、スロベニア事情等の情報を随時発信しております。「いいね！」ボタンで当ページのフォローをよろしくお願いします。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

【文化行事のお知らせ】

●日本人形展 6月5日(日)まで開催中

古来の風習に育まれた「雛人形」「五月人形」や古典芸能に材をとった「能人形」「文楽歌舞伎人形」など日本の代表的な人形約70点を紹介しています。

期間: 4月5日(火)～6月5日(日)

場所: マリボル地域博物館 (Maribor Regional Museum)

(住所: Grajska ulica 2、2000 Maribor)

●第5回日本文化紹介行事「Japan Day 2016」

今年で5回目を迎える Japan Day では、新しいコンテンツを加え、さらにパワーアップした内容で様々な日本文化を紹介。出展内容やプログラム等の詳細は後日お知らせ致します。

日時: 6月11日(土) 午前10:00～午後17:00(予定)

場所: Gospodarsko Razstavišče

(住所: Dunajska cesta 18、1000 Ljubljana)

●裏千家・千玄室大宗匠による講演及び茶道デモンストレーション

茶道裏千家の千玄室大宗匠(第15代前家元)が、裏千家淡交会スロベニア協会設立の記念式典に合わせてスロベニアを訪問し、記念講演会及び茶道のデモンストレーションを行う予定です。満93歳を迎えた大宗匠による平和への思いが込められた講演会へ是非お越し下さい。

日時: 6月26日(日) 時間未定

場所: グランド・ホテル・ユニオン

要予約(予約方法は、後日当館のホームページ等で告知します。)

【領事からのお知らせ】

●「たびレジ」に簡易登録機能がつきました！

たびレジとは、いざという時、在外公館などから緊急時情報提供を受けられる外務省の海外旅行登録システムです。

この度このたびレジに簡易登録機能がつきました。メールアドレスと対象国・地域だけを登録することで、実際の渡航の有無やその旅行期間に縛られることなく、継続的に領事メール及び最新海外安全情報メールを受け取ることが可能となります。(ただし、緊急時の安否確認の対象とはなりません。)

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>